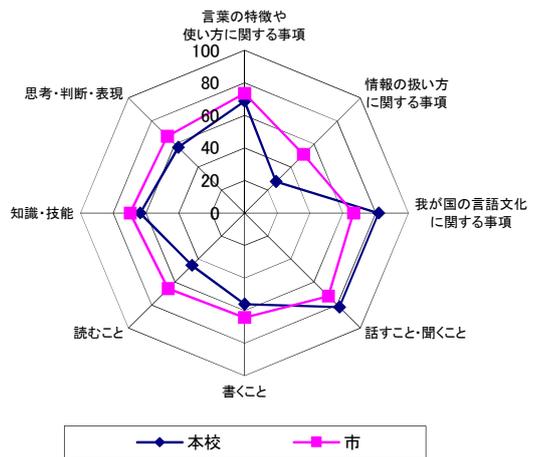


宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.6	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	27.3	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	81.8	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	81.8	72.3	73.7
	書くこと	56.1	64.3	66.6
	読むこと	45.5	65.8	64.9
観点別	知識・技能	63.6	69.8	70.8
	思考・判断・表現	57.0	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

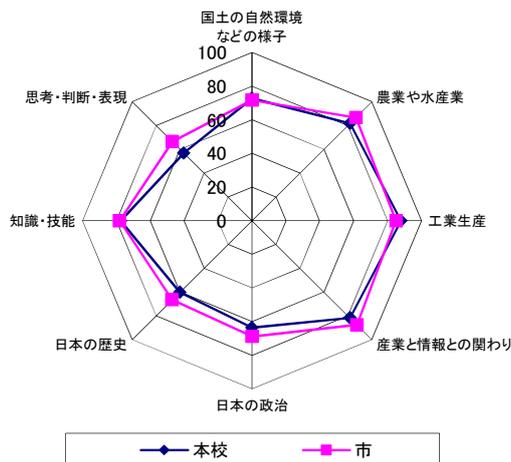
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○漢字の読み書きの正答率は比較的高かった。</p> <p>○日頃から既習の漢字を使うよう声掛けしているため、文章の中で文脈に沿った漢字を適切に使うことができていた。</p> <p>●敬語の使い方が未定着である。</p> <p>●文と文の接続関係の理解に課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 敬語の使い方について、尊敬語、謙譲語、丁寧語の意味や用法を改めて指導し、日常的に活用できるようにする。 接続詞を適切に使うことで文章が読みやすく、分かりやすくなることを指導し、使い方を再確認する。日頃の作文などでも正しく活用できるよう指導していく。
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●複数の情報を読み取り、その関係を理解し、整理することや、複数の情報を活用し、目的に応じた文章を書くことに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習などにおいて、複数の情報を集め、メモを取り、分かりやすくノートにまとめる活動を通して、情報を整理する力を高める。 他教科においても、複数の情報をもとに考えたことを文章化するなど、目的に応じた文章を書く習慣を身に付けさせる。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○普段の学習で意味調べを行い、語句の由来についても継続的に学習していたため、和語・漢語・外来語の区別に関する問題を正しく理解できていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、漢字辞典や国語辞典を活用して意味調べを行い、語句の由来にも着目させることで、言葉への関心をさらに高めていく。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○他者への質問の仕方について、詳しく聞き出すための工夫を理解できていた。</p> <p>○自分が聞きたいことに対して話の内容を正しく捉え、その後の記述問題の正答率も比較的高かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習において、インターネットや本だけでなく、インタビュー形式での取材の機会を設け、必要な情報を得るための質問の工夫を実践しながら、さらに力を高めていく。 今後も、自分の意図に応じて話の内容を正しく捉えられるよう、指導を続けていく。
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○普段の学習の振り返りなどで、自分の考えを文章化する機会を設けているため、指定された長さで文章を書くことができていた。</p> <p>●段落の役割を理解し、2段落構成で文章を書くことに課題がある児童が多かった。</p> <p>●予想される反論とそれに対する自分の考えを、具体的に書くことが難しい児童が多かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感想文や報告文などを書く際には、意図的に段落を分け、その役割を意識した文章を書くよう指導していく。 意見文においては、反対意見を想定しながら書くことを指導するとともに、具体的な事例を挙げるなどして、説得力のある文章を書く意識を高めていく。
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●物語文では、物語の内容を読み取り、登場人物の心情について、描写を基に捉えることや、物語の感想を共有し、自分の考えを広げることに課題が見られた。</p> <p>●説明文では、文章全体の構成を捉えて、要旨を把握することが難しく、叙述を基に文章の内容を読み取る問題の正答率が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 物語文では、普段から叙述を基にした登場人物の心情理解ができるよう指導していく。また、考えの交流がしやすくなるよう、1人1台端末のコミュニケーションツールも活用していく。 説明文でも、叙述を基にした正確な読み取りを指導していく。また、文章全体の構成を捉えるために、文章構成図を用いて、段落の役割や書き手の意図などを視覚的にも分かりやすくして指導していく。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	72.7	71.6	69.6
	農業や水産業	81.8	86.7	83.7
	工業生産	87.9	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	81.8	87.7	77.4
	日本の政治	63.6	68.9	71.7
	日本の歴史	60.2	66.7	66.3
観点別	知識・技能	77.5	78.0	76.7
	思考・判断・表現	56.8	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

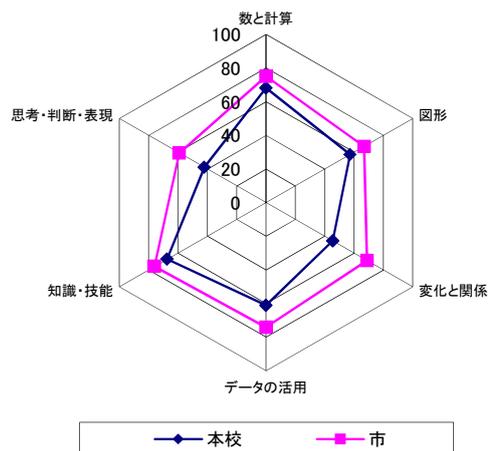
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○日本周辺の海洋名や日本との関わりが深い国の位置や国旗についてよく理解できている。</p> <p>●日本の林業が抱える問題についての理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の主な地形の名称と位置については、授業の導入でミニテストやフラッシュカードに繰り返し取り組むことで、これからも知識の定着を図っていく。 自然、環境に関することについて、動画や写真、統計資料などから読み取り、発表する活動に取り組みさせる。
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○米の生産の工程や盛んな地域について理解できている。</p> <p>●資料から水産物の流通の工夫を読み取ることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本の産業の特徴を統計資料から読み取れるように、表題や出典など基本的事項やグラフのどこを見るのかポイントを押さえて読み取らせることで焦点化を図った授業を展開していく。
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○自動車の製造工程や工業製品の分類について正しく知識を身に付けている。</p> <p>●資料をもとに日本の工業の特色について文章に表現することに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 統計資料から分かることを箇条書きさせ、グループや全体で共有化する学習活動を取り入れることで知識の定着を図る。 複数の資料を比べ、共通点や相違点を見付ける活動を取り入れることで工業の特色についての理解が深まるようにする。
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○さまざまなメディアの特徴について理解できている。</p> <p>●情報の発信と受信の際に注意しなければならないことの理解が不十分である</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入等で、動画資料を活用しながら自分たちの日常生活でのメディア体験やインターネットの情報発信、受信の際の注意点について、全体で共有化を図ることで、メディアの理解が深まるようにする。
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○内閣のはたらきについて理解できている。</p> <p>●国民と国会と内閣の関係についての理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 三権分立について理解が不十分な様子が見られるため、教科書の図を視写したり、図をもとにそれぞれの役割について説明したりする活動に取り組みさせることで、知識の定着を図る。
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○書院造の部屋の特徴について理解できている。</p> <p>●元との戦いの理解について課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な事象を理解させる際に、「もし自分だったらどうするか」という視点で考え、当事者意識をもたせ、実際に行われたことについて調べることで、より理解が深まるようにする。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.2	75.1	75.8
	図形	57.3	66.8	68.3
	変化と関係	45.5	68.8	65.0
	データの活用	61.0	74.1	63.6
観点別	知識・技能	67.4	76.1	75.8
	思考・判断・表現	42.0	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

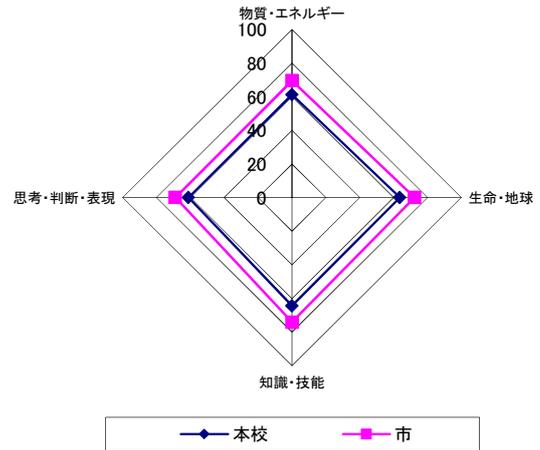
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○何倍かを求める除法の立式方法を理解している。</p> <p>●分数同士のかけ算やわり算の計算に課題が見られる。</p> <p>●文章と図を同時に読み取り、立式することに課題が見られた。</p>	<p>・小数や分数の四則計算を朝の学習や家庭学習、授業の始め等で継続的に取り組み定着を図る。</p> <p>・数直線などの図から立式の仕方を考え、説明する活動を取り入れるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○合同な図形の作図問題を繰り返し解かせ、定着を図ったことで合同な三角形の作図方法が定着している。</p> <p>●三角形の内角の和が180度であることや、正多角形の角度の性質についての理解が不十分である。</p> <p>●円や角柱などの体積を求める式の理解が不十分である。</p>	<p>・四角形や三角形、円の面積、角柱や円柱の体積を求める問題を朝の学習や家庭学習、授業の始め等で継続的に取り組み定着を図る。</p> <p>・図形の学習では、具体物やICTを取り入れることで視覚的に図形を捉え、図形の性質について理解を深めるようにする。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●割合では基準量と比較量から割合を求めることに課題が見られる。</p> <p>●速さと道のりから時間を求める方法の定着に課題が見られる。</p>	<p>・割合の定義や、基準量と比較量の割合の関係を再確認し、類似問題に取り組みながら、問題文から必要な情報を読み取る指導をしていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○ドットプロットのデータを正確に度数分布表に表すことができていない。</p> <p>●円グラフや度数分布表から情報を読み取ることに課題が見られた。</p> <p>●問題文や表から平均を求める式を立式したり、考え方を説明したりする力が定着していなかったと考えられる。</p>	<p>・教科書のデータだけでなく、児童の生活に即したデータをグラフや表に置き換え、データを読み取らせることで、実感を伴った学びにつなげていく。</p> <p>・問題文を図や数直線で表してから立式させたり、授業において考えの根拠を共有したりする指導をしていく。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	61.2	69.5	65.2
	生命・地球	63.6	72.3	70.1
観点別	知識・技能	64.3	74.0	70.7
	思考・判断・表現	61.1	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○物の燃え方については、酸素には物を燃やす働きがあることを十分に理解している。物が燃える現象を詳しく観察できる場を設定したことが、その理解の定着につながったと考えられる。</p> <p>●水溶液の性質では、水溶液には気体が溶けているものがあることや、金属を変化させるものがあることへの理解が不十分であった。また、水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べることに課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水溶液の性質や働きの違いを実験を通して体験的に理解できるようにする。炭酸水から気体を取り出す実験を行い、水に気体が溶けていることを視覚的に捉えられるようにする。 塩酸に鉄やアルミニウムを浸す実験を行い、水溶液が金属を変化させることを具体的に観察させる。 異なる水溶液を用いた実験結果を整理し、表やグラフにまとめることで、それぞれの性質の違いを比較し、共通点や相違点を論理的に考察する力を育てる。 水溶液の働きが日常生活の中でどのように活用されているのかを調べる活動を取り入れる。サビ止め、発泡入浴剤、炭酸飲料などの具体例を通して理解を深め、概念の定着を図る。
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○月と太陽については、太陽の位置関係と月の形の見え方を十分に理解している。月と太陽の位置に着目し、実際に観察を行ったり、モデルや図を用いて表したりするなど、多面的に調べたことが理解の定着につながったと考えられる。</p> <p>●動物の体のつくりと働きでは、食べ物の消化と吸収についての理解が不十分であった。特に、ヒトの体内の臓器に着目し、それぞれの働きと消化の関係を結びつけて捉えることができていないと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 動物の消化と吸収について、臓器の働きを関連付けながら理解できるようにする。消化の過程を視覚的に捉えられるよう、消化器官のモデルを使った学習やICTを活用して、食べ物がどのように分解・吸収されるかを図にまとめる活動を取り入れる。 実験や映像資料を活用し、消化液の働きや腸での吸収の仕組みを視覚的に理解できるようにする。 人間の消化の仕組みだけでなく、他の動物の消化の特徴と比較しながら学ぶことで、臓器の働きの共通点や違いを考えさせ、理解を深める。

宇都宮市立上河内西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の自己調整力を高めるための授業改善	児童が「見通し・学習・振り返り」の学びのサイクルを回し、自ら学びに向かうことができるように、学習者にとって「わかる」「おもしろい」と感じる授業を展開するとともに、児童のメタ認知を促す自己評価と学びを価値付ける声掛けを行っている。	「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問に対し、すべての学年で8割の児童が肯定的に回答しており、学びに前向きな姿勢が見られる。一方で、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」という質問の肯定的な回答は、市の平均より低い。そこで、児童の学びに対する前向きな姿勢を生かしながら、自律的な学習者を育成するために、振り返りを通じて学びの価値を実感できるような声掛けを行い、次の単元へとつながるカリキュラムマネジメントを進めていく。
授業における話し合い活動の充実	授業の中に意識的に話し合いの場を設け、互いの考えを伝え合うだけにとどまらず、友達の意見と自分の意見を比べて聞いて、考えを深めたり修正したりして練り合いながら話し合いが行えるよう指導している。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という項目では、ほとんどの学年で8割以上の児童が肯定的に回答している。また、「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」という項目でも、すべての学年で7割以上の児童が肯定的に回答している。このことから、児童は友達との対話を通じて、多角的な視点で物事を考えることに価値を感じていることが分かる。さらに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域において、市の平均よりも高い平均正答率を示しており、児童の成長がうかがえる。今後は、ICTの活用をさらに推進し、話し合い活動をより充実させることで、児童が友達と学ぶ楽しさを実感できるようにしていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・課題となる内容を系統的に把握し、全学年で共通理解を図ることで、授業や朝の学習、家庭学習に意図的に取り入れ、定着を促す。
- ・児童が自己の学びを振り返りながら自己調整のサイクルを回し、主体的な学びにつなげられるように、単元設計を工夫する。
- ・引き続き、話し合い活動を充実させ、自他の考えを深めたり修正したりしながら、練り合いを通してよりよい学びへとつなげる指導を行う。